

第1回地域コミュニティ活性化委員会会議要録

日時：令和元年6月18日（火）18時30分～20時45分

会場：箕輪町役場 202会議室

参加者：地域コミュニティ活性化委員 10人（全員出席）

　町長、事務局3人（企画振興課）

傍聴人数：2人

報道機関：2人

1 開会（毛利企画振興課長）

2 委嘱書交付

3 町長あいさつ（白鳥政徳町長）

4 自己紹介

※委員、事務局自己紹介

5 委員長及び副委員長の選出

※立候補無しの為、事務局案により委員長、副委員長について提案し、全委員異議なし。

（拍手により確認）

委員長 根橋清二委員 副委員長 小林ふさ子委員

6 説明事項

（1）委員会の任務、組織について

※資料をもとに事務局より説明

（2）区・常会の状況について

※資料をもとに事務局より説明

7 意見交換

地域コミュニティの現状と課題について

委員長）これからこの委員会で多少参考になればと思い、区長になった時に作った資料について、これから簡単に説明させていただき、意見交換を始めさせてもらえば。

※委員長提出資料をもとに、委員長より説明

○南小河内区の行政・活動推進体系の概要及び人口等の主要データについて

　人口減少により、将来的に区民生活に支障が出る、次代を担う若者に過度な負担がかかる事への問題意識から作成。区民へ配布済み。

現状でも区長や役員の選考に苦慮しているが、役員を担う年齢の層が 10 年後には、単純計算で 60% 減少する。その事を危機感を持って、事実を直視してもらうように区民に訴えてきた。区会でも主要テーマとし、専門部会も設置。区民とも複数回意見交換をし、資料も 2 回、全戸配布した。全戸配布により、予想以上の反響があった。データを見る事で問題を切実に感じ、何か取り組まなければという、課題の共有が出来た。この問題は、根深い問題なので、今後は少しづつ改善していきたい。

○町、区、町民の役割分担について

何でもかんでも、町や国でやってくれという行政マターの意識を変える必要があるという事を概念的に基本認識していても、具体的な中身が明確でなく、共有されていない。それぞれが勝手な解釈をしている。「協働のまちづくり」、何故必要か、具体的には、自立した町民として何をやっていかないといけないのかを明確化、共有する必要がある。70 歳まで働く時代。平出委員が言っていたように、普通のサラリーマンは、大変で区長は出来ない。極端に言うと、普通のサラリーマンでも出来る仕組みや運用していく必要がある。役員の負担軽減が大きなテーマ。区は、町の行政の一端を担っている。15 の区が健全に運営する事は、町にとっての重大なテーマ。町と一体となって考える必要がある。

○住民生活のサポート体制の拡充について

目に見える有形的なもの(助け合い活動、役員体制変更、環境整備活動)。区民、町民の意識に根差した目に見えない無形的なものをどう改善していくか。区民が出来る所は、協力しあってやってもらう事の積み重ねにより結果的に認識が変わってくるので、これまでもその仕掛けをしてきた。

委員長) 自由に意見交換をさせてもらえれば。指名させていただき、恐縮ですが、中原区長の唐澤委員どうですか。

唐澤) 先程も根橋委員長が 2 年前に区長をやられたという事で、私も北小河内の平出区長も現在区長をやっている。区長の立場として、色々考えるともう少し大きい目で見られればと思うが、受けたばかりで中々出来ていない。根橋委員長も 2 年前に中原区長と話をしたかもしれないが、実際に区の役員の負担というのは、非常に大きい。例えば、充て職が多い。それが負担になっている。その原因は、人口が増えない事。今日、明日にすぐ人が増えるわけではない。この間も企画振興課に行って話をしたが、中原の場合、一番の問題は、跡取り、長男の事。知らないで住んで、いきなり公民館の役員やるということもある。私の場合もそうであったが、消防を 18 歳～34 歳までやって、辞めて 2 年目、36 歳の時に区会議員をやった。人口が減っていく原因を防ぐために、跡取りがしっかり定住できる施策があれば、役員負担の軽減の基になる。

平出) 根橋委員長が言うとおり。一番はやはり、様々な活動をいかに継続させるか。役員の成り手をどうしていくか。私が区長代理をやった時は、選考が締切間際だった。当時の区長から私が区長代理を引き受けたら、区長をやるとと言われ、やらざるをえない状況だった。今回、区長を受けるにあたり仕事を辞めた。仕事を辞めても、会社に籍は置いておいてくれたので、手が空いた時には、行きますよという話だったが、未だ仕事に行けていない。とにかく毎日、携帯を離せない。どこに居ても電話がかかってくる。水路が詰まった、

外灯が壊れた、細かい内容も含めて、苦情受付係のようなもの。そのために毎日役場に行っている。そういう状況から私も改革しなければいけないかなと思い、区政を考える特別委員会を設けようかと思った。いくらか経験した上でその組織を立ち上げてと考えたが、実際にやってみて、私の仕事を無くす、具体案が考えられなかつた。委員会の立ち上げは、辞めた。区の仕組み、作業を維持していくのが大変。お助けボランティアという組織があるが、長は、区長。地区社協も長は区長。ふれあいサロンも長は、区長。全部区長。会議がある度に区長が行かなければならぬ。区長を辞める時、誰がやるか、これからの一一番の課題。私も70歳まで勤めるつもりで人生設計をしてきた。私が区長。妻は、民生委員。98歳の父親を見ている。2人とも色々な会合に出なければならず、結局、父親を預かってもらっている。入ってくるものは、無い。出ていくものしかない。自分の生活までちょっと考えたことはある。受けたからにはという気持ちは、あるが。

高橋) 委員会の任期について。今、どうするか。5年後、10年後、その先を考えるのか。どういう流れを、長いスパンの将来像共有、どういう対策をとるか。順を追って区民に説明し、実現可能なものから30年後位を見据えて対処していかないといけないと考えているので、委員会の任期について、どの位のスパンでやるか明確にしていただきたい。私は、実は区会議員をやっている。回り番で大出区の区会議員になった。行ってみたら、公民館の副分館長が充て職。来年は、区会議員と公民館の分館長をやる。私自身も小学校4年生の子供がいますし、妻と私で自営業をやっている。自営業だからできるだろうと言われて、もう1人、同じ組で候補者がいたが、私は、そういうのはやらないの1点張りでしたので、引き受けたけれど、若い世代に順番、ルールだから回すのか。私的には、出来る環境の人が出来るタイミングで自発的にやる区運営が理想と思っている。私としてもやりたくないとか、断固拒否するというわけではない。ただ、この状況でという人が大勢いると思う。その2点が今、感じている事。

委員長) 前者の件について、町からご説明いただければ。

事務局：小笠原係長) 本委員会につきましては、振興計画の下部組織なので、5年後、10年後を見据えた中で皆さんにご検討いただきまして、ご提案いただければ。とりわけ、喫緊としましては、団塊の世代が70歳を超えてくるのが、2025年ですので、そこになりますと、委員長が言うように担い手がいなくなる。そこを含めて整理していただく。ただ、町としても、今年、人口ビジョン改訂しますので、地域の皆さんに見ていただきながら、その先、2040年を見据えていただく。取り急ぎは、5、10年後。

白鳥町長) 1点だけ私からもよろしいですか。昔のように担い手になる人がたくさんいた時は、こういった問題は起きていない、誰かがやってくれた。やらない人はやらない人で済んでいた。最近になって特に大きな声、先程、委員長からも話がありましたが、本来、行政が行う事を地域にやらしているんじやないという意識が非常に強くなってきた。私は、全くそうでないと思っているが、こういった認識は、非常に強くて、それは、担い手不足が起因していると思っている。我々、行政がやるべき事と地域の中で人間が生活する以上、どうしても地域との関わりあいは、なくてはならないし、無いと生きていけない。そういう

った意味で行政と地域との役割の明確化が必要。そうしないと、今、悶々としているものは、中々、払拭できない。単に常会に入らないからいけないと言っていても、事は済まないので、もっとベースになることを考えないといけないというのがこの委員会の主たる目的。といっても、20年後、30年後まで考えている状況ではないので、この厳しい現状を何とか意識を少しでも変えていただいて、厳しい状況や色々な課題を皆で解決するような事を、もちろん行政でやらなければいけないので、行政と地域の担う役割を少しでも明確にできれば。

委員長) ありがとうございます。小林副委員長どうですか。

副委員長) 各区の区長さんのご意見を伺う中で区長や区会議員の役員決めが一番大変だと聞く。その中で女性という選択肢も私は、女性活躍推進会議もやらせてもらっていますが、女性もという視点で役員を選考するということもいかがでしょうか。南小河内は、女性の区会議員さんがいらっしゃるそうですが、その辺のお話をいただけますでしょうか。

委員長) 区会議員は、6つの常会でそれぞれ1名ずつ出しておらず、6名で構成している。女性が1名いる事は事実だが、あまりここで話したくない。前年度の区会で確認しているが、基本ベースとして、女性を積極的登用していく必要があるという事は共有している。ただし、女性が何もやってないという認識は違う。福祉関係は、女性中心でやっている。他所もそうだと思うが。少なくとも区政の一端を女性がかなり担っていただいているという意識を確認しようじゃないかと。確認した上で区会議員への登用が必要だが、前年度確認しているのは、社会的風潮で女性を登用するのではなく、考え方を整理してやる必要があるという事。その中で、区から要請されたという事で、常会からも選考経過が不透明という事でクレームがついたが、それはいっても女性がなったので、長い目で見て上手く次につなげていきたい。もう1つは、区会議員より分館の役員の方が女性に入りやすいのではないかと。私も今年度の分館の3役にお願いして、分館の役員に登用してもらいたいという事で何年かぶりに女性がなった。区の会計と事務員の実質2名。この間、みのわの実のインタビューで小林さんも答えていたが、区会議員は、どうしても肉体労働なんかもある。整備作業は、区会議員の旦那さんが出てきている。ちょっと変則的な対応もありかな、何の為に女性、先程、紹介した区政改革の中で、後1、2年経ったら大胆に役員体制を変えるという提案をしている。考え方を整理した上で女性に区会議員をやってもらおうと考えていた矢先の見切り発車。

そうは言っても後には、戻れないで上手く繋げていきたい。

副委員長) 私も過去に区会議員をやらせてもらっていた。行ってみたら、父ちゃんじやなくて母ちゃんなんのかいと聞き返された位、男が区会議員やるもんだと、私の友達が西部地区にいるんですが、戸主が区会議員やるもんだという固定概念がある地区があって、なんで女性が、奥さんが区会議員をやるのか、木下は、おかしいと言われた事があった。そうではなくて、私の夫は協力してくれて、家の中で出来る人がやればいいじゃないかと。区会議員の仕事でも溝さらいや山に行くこともあるが、女性でも出来る、女性じゃないと出来ない仕事もたくさんある。地区社協の関係や適材適所である。山人足も危ないから業

者に任せている区も増えていると聞いている。なんでかんでやるのが区会議員なのか、溝が詰まっているで、何とかしてくれと言われて、溝さらいをするのが区会議員の仕事なのかを見直す必要があると思う。何か道が壊れてたら、区会議員に言って補修するのではなく、壊れてるから直して欲しいという要望を町にあげるという事も可能では。そうすれば女性も区会議員が出来るのでは。

有賀) 役員は、やったことないんですが、回り順でいくと、来年は、常会長の予定。現状の問題として、戸建ての住宅の方で常会に入らない方もいる。そんな方でもごみステーションを使用するので、協力費をもらっている方が何人かいる。では、常会費、区費ってなんだろうというのが、私が疑問に思っている事。先程、町と区を分けて考えようという話もあったが、町には、町民税、区には区費、常会費、その線引きは。ごみを捨てるのは、町で回収しているのだから、いいんじゃないかと思う方もいるかもしれない。よく聞くのは、行ってもまだ、ごみステーションが開いていなかったから、ごみを前に置いていくというルール違反の方もいる。アパートの方も払っているから、開いていないけど、前に置いていくという方も結構いらっしゃる。コミュニティとしては、正直困る。では、どうしようというのは、実際、案は無い。アパート自体でごみ置き場を置いてもらうのも地区として安心できるので1案。そういうゴミの話題もコミュニティの1つなのかなと考えて、発言させていただいた。

林) 先日、セーフコミュニティの講演会で片田先生の話を聞かせてもらった。その中でも出てきた話で、防災の関係の話でしたが、そのベースになるのが地域づくりというお話をされていた。今、地域力が弱まっていると言われている。自分達の暮らしている地域をどう住みやすくするか。防災であれば、自分達が安全な地区にする為に、自分達がどう動くかが必要だと思う。自分達が暮らす場所をどう良くしていこうというような気持ちであれば、地域コミュニティへの関わり方が変わってくる。そういう気持ちに持っていくには、長いスパンでの取り組みをしていかないとそこには辿り着けない。先程、高橋さんも仰ったようにそういう取り組みには、長いスパンが必要。では、目前の課題は何かと言うと、今、沢山出てきたように、役員の成り手不足、働き手の不足、景気やそういった事に関しても負担が大きくなっている。そういう点に関しても深く区でもって、各区で自由な発想で考えて自分達で取り組む必要もあると思う。そういう事が出来る、地区や区を作っていく取り組みを必要だと思う。だからといって、具体的な案は無いが、そういう視点から自分達の地域コミュニティを作っていく必要があると感じる。

委員長) 大きい区と小さい区では、同じ課題があるとしても、切実感が違う。先程、有賀委員も仰っていたが、よく話題になるのが、区や常会に入らないという事。特に大きな区が課題になるかなと思う。木下区はどうですか。

副委員長) 入ってくれるようになったが、問題は、アパート。

浦野) バイパスの東側は、新しい家が建っているが、そうじゃない所に、3軒家が建っていて、皆常会に入っている。年に1軒ずつ若いご夫婦が入っている。意外と坂井は、戸数

が少ない。常会がある時は、常会長なり、組長が出てくる。組長にしても若い衆がいても、70代、80代のお父さんが出てくる。結局、息子さん達は、夜、交代勤務の方も多くいて出てこられない。もっと若い衆を出せばいいのにと思うが、中々、若い人が出てこられない。若い世代でも部長になったら出てくる。他の役でいうと、2月まで分館をやっていた。私が分館に入った時は、すごい量の行事、内容だった。2年やって主事になった時に、その時の分館長に言って、行事を整理しようという事になった。そうしないと新しく声掛けて、入ってもらう人達にすごい大変だと伝わってしまっている。結構、整理した。行事を月1回にした。自分達で整理した。大分、整理したので、確かに大変だが、今年度は、分館員を4名減にできた。厚生部という女性の部があったが、子育ての方が町として整ってきたので、分館としてスマイルクラブを月2回から月1回に変えて、今年度はなくした。他と同じ事業の中で、年2回子育て関連の事業を行うようにした。自分達で整理した。小林さんは、違う意見になってしまふが、区議員にも女性をという所で私は、無理矢理女性を入れる事は、特にしなくていいと思う。状況の中で良い人(小林さんのような)がいればいいが、主事をやる時だって男性が多かったので、部員の時は嫌だった。男性自身の考え方を変えてもらう事も大事だし、なった自分もそう思われない努力が必要だと思った。地域の中、常会の中でもそうだなと思って、常会に出て行っても女の私が言う事は、なんあの女性は、という感じを最初はうけた。色々な活動をする中で認めてもらってきた部分も感じる。私達、女性も何らかの形を示すことが必要。男性も視点を変えて考えて欲しい。

副委員長) 何かあれば、女はダメだと言われる。

委員長) あと、10分位。次回からは、視点を絞っていきたい。

小松) 一昨年までの2年間、木下の公民館の副館長をやった。私自身、そんなに大変じゃないと聞いていた。月に1回位出れば済むと聞いていた。やってみたら、全然違った。地元で産まれ育った人間じゃないので、地元と仲良くさせてもらういい機会と考え引き受けた。中々大変で、例えば、駅伝の前は、1月以上毎日出る。とても負担を感じた。正副分館長会は、浦野さんが先程、仰っていたように、紅一点で木下区は、副館長がずっと女性だった。どこかの館長さんが、そういうふうに女性に参画してもらうのもいいなと言われて救われた部分がある。ちょうど、両親の介護が入ってきて、大変になって、仕事辞めた。母に分館も大変だから、仕事を辞めて家に居て欲しいと言われた。そういった事があって、私も精神的に大変な思いをしたというのが大きく残ってしまったのが残念だったと思う。出なければいけない時、代わりをお願いしたり、皆さんの協力の中でやった。私の後任を決める時、50人以上に声をかけた。全員ダメだった。私自身が入って、全然違うじゃないという思いがあったので、ある程度正直にお伝えしたら、誰も引き受けってくれなかった。最後の最後に嘘をつかない程度に濁しながらお願いした。後に大変じゃないと叱られたが、力のある方にやってもらえて良かった。そういった事もあって、力不足ながらその時の50何人に断られたのが、プラスのトラウマになって、お願いされたら断れなくなってしまった。今日もその影響でここに座っている。

副委員長) 木下の副館長、女性というのは、女性だと皆さんをまとめる力+和やかな雰囲

気になる。3代前に副館長をやったが、正副分館長会には女性がいなかった。副館長が女性というのは、適任だと思う。

浦野) 松島から私が出ていって、すごい喜んでもらえた。

春日) 主人が数年前に常会長に決まってから、単身赴任になったので代わりに私が出る事が多かった。わりかしよくしてもらって、女性だからこの仕事をと言ってもらえ、配慮してもらった。皆さんには、負担をかけたが、区に出ていくという大変さと暖かさを感じる場だった。常会の方で成り手不足。基本的に順番で決まっているが、こうだから出来ないとか、どんどん同じ世代に全部の役が回ってくる現状。そこで意見を言うと、若いやつが何言ってんだよと言われてしまった。その時にある方が意見だから誰でも意見を言っていると言ってくれた方がいて有難かったが、中々変えていくのは難しい。もう1つ、私の所は、南小。学校の役員と区の子供会は、切っても切れないが、常会に入っている家と常会に入っていない家があると、中々、上手くいかない。どうしたらいいのかなと思う。

委員長) 高橋委員に1つ質問。箕輪に何年前にお越しになったのか。箕輪に来て、率直に感じた事は。

高橋) 今年で箕輪12年目。率直に。農業をやるつもりで来た。箕輪町に入ったつもりなのに、各区で状況が全然違う。区費や役職。現在進行形で感じている。たまたま、みのわ未来委員会の委員になって、こういう会議に呼ばれたり、区会議員もやっているので、何かの縁だなと思い受けた。移住者にとっては、そういう事を調べて入ってきている。八乙女の方が区費安いとか。移住したい方は、そこを比較して入ってくる方も出てくるのかな。私自身現在進行形で感じているのは、若いから黙るのではなく、言っていく。女性の件で1つヒントになるのが、大出区で2年前から取り組みだした、財産区の草刈り。やまびこ隊という任意組織を立ち上げた。前区長、前々区長が努力をされて合議で決定されて、土木員と自主的な人で草刈りをしている。区会議員になってみて分かったのは、区会議員が何故アレチウリの草刈りや公園の草刈り。例えば、環境整備ボランティアを区で立ち上げて、アレチウリが年2回、大出の公園が年2回、年4回。価値観が低下している世の中だからこそ、義務で区会の仕事をするのではなく、永続的にボランティアで環境整備したいなど、アレチウリと公園の草刈りから始まって、出来る事を広げていく。社協の理事もやっている。社協でふれあいサロンに出られるという人に老人や今後の地域社協ボランティアを立ち上げて、任意的な人が長期間やった方が需要が分かる。私は、なって1年目で勉強して、2年目で出来た。順番的にもう回ってこない。自発的な方が数年スパンで行っていける任意組織を区を作っていくと、それを束ねる区長さんや少数の区会議員の負担はあるが、役務自体は、減るのでと率直に思っている。

委員長) 私として、皆様に議論の幅を広げるために意見をもらいたい。移住者が周辺の方と上手くやっていくのは大事なことだと思う。反面では、南小河内は、体験住宅もあるので、区長自体、来た方と意見交換をした事があるが、冬の天候の問題や車の問題を気にしていた。都会にいると隣近所のつながり、煩わしさが気になるという意見もあった。一方、

人口減少の問題がある中、区や常会に入る事をもう少し寛容に考えても良いという議論もあるのでは。私がそう思っているわけではないが、議論の幅を広げる為に次回以降は、議論していただければ。

浦野) 全く、違う話になるが、役場に聞きたい事があり、分館時代に子育ての方をやっていて、未来課にも支援をしていただいて、色々な子育てサークルが出来た。沢山あったが、いくつかのサークルが無くなったりした。役が回ってきた時に色々な活動を考えるのが大変という事でいくつか消えた。いろはポケットに色々な形で何人か来ていた。そこに行くのも大変なので自分達で出来るだけみたいの事を言っていた事があった。松島分館も子育ての時に頼まれては、困る。ママ達を助けてあげられる支援体制があればいい。役もそうだし、それが負担。折角、出来たサークルが消えてしまう。そういう所の町の支援を考えて欲しい。

白鳥町長) 私の知っている範囲で子育てサークルが減っている印象は、無い。確認してみる。十いくつあって、支援もしている。年間2万人の利用者(いろはポケット、みのわ～れ)。そちらに行ってしまうというのもある。濃いママさん友達が出来るので、地区の子育てサークル大事。確認してみる。数は、減ってはいけない。

平出) ふれあいサロン。区で立ち上げた。立ち上げた人が辞めたら、出来なくなる。次は、どうするかとなったら、役員がやるしかない。役員がやる姿、盛り上げる様子を見て、身を引いてしまう。私がよく言うのは、力むな。自然にお茶飲んで頑張ろう。役員になると頑張ってしまう。ということがあって、次に続く人が出てきていないのでは。

委員長) 人に頼らない。人が変わってもベースの仕組みが変わらない組織づくりが必要。次回以降の焦点を絞りたい。町長のご意向は。

白鳥町長) 色んな議論してもらいたい。時代の変化で区や常会の自治組織を変えていかないといけないと思っている。しかし、決してそれは、町の事をやる、やらないでなく、地域を作っていく上にどうやって変えていくかだと思っている。組織の中でNPOや色々な組織を作ればいいとあったが、その通りだが、そのベースにある自治会は、それだけでは済まない、やらざるをえない、嫌になったら辞めるという訳にはいかないものが沢山ある。それをどうやったら、継続的に出来るかを皆さんで議論していただき、町として裏方で出来る事があれば、やっていきたい。出るのは、嫌ではないので。出させていただく。

委員長) できるだけ、出てもらえば有難い。次回以降は、論点絞っていきたい。

白鳥町長) こちらからも今回の議論を踏まえて、こんな論点でお願いしたいというのもあると思うので、お願いしたい

次回開催日：8月21日(水) 19時～

閉会 20時45分 終了